

48 歳男性。自宅で突然の鮮紅色の吐血と黒色便を主訴に救急要請し来院した。

既往歴：特記事項なし。

内服薬：なし

生活歴：飲酒は日本酒 2 合/日、喫煙は 10 本/日を 28 年間

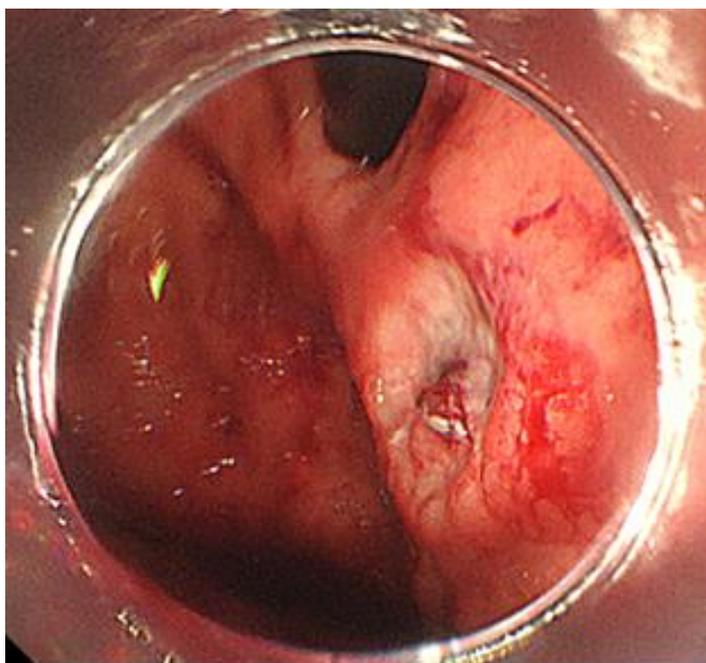
現症：意識は清明。体温 35.3°C。脈拍 125/分。血圧 75/55mmHg。SpO₂ 98%(room air)。呼吸数 14/分。腹部は平坦で、上腹部に圧痛を認めるが腫瘍は触知しない。

検査所見：

血液所見：赤血球 280 万、Hb 8.8g/dl、Ht 29.2%、白血球 5690、血小板 17 万。

血液生化学所見：AST 21 IU/l、ALT 15 IU/l、LDH 246 IU/l (基準 176~353)、総ビリルビン 1.0mg/dl、総蛋白 5.9g/dl、尿素窒素 36mg/dl、クレアチニン 1.23mg/dl、Na 140mEq/l、K 3.8mEq/l、Cl 104mEq/l、CRP 0.10mg/dl、CEA 4.8U/ml (基準 5 以下)

胃内の上部消化管内視鏡検査の画像を以下に示す。



問 1 内視鏡的治療として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a.縫縮術 b.結紮術 c.クリッピング法 d.粘膜切除術 e.エタノール局注法

問 2 治療を行い患者の状態が安定した。つぎに行うべき検査として適切なものを2つえらべ。

- a. 上部消化管内視鏡検査再検 b. PET-CT c. 絶食試験 d. 下部消化管内視鏡検査 e. 便中 H.pylori 抗原測定

73 歳男性。倦怠感を主訴に来院した。5 年前にアルコール性肝硬変と診断されている。

既往歴：2 型糖尿病、高血圧症

生活歴：飲酒は日本酒 1 合/日。

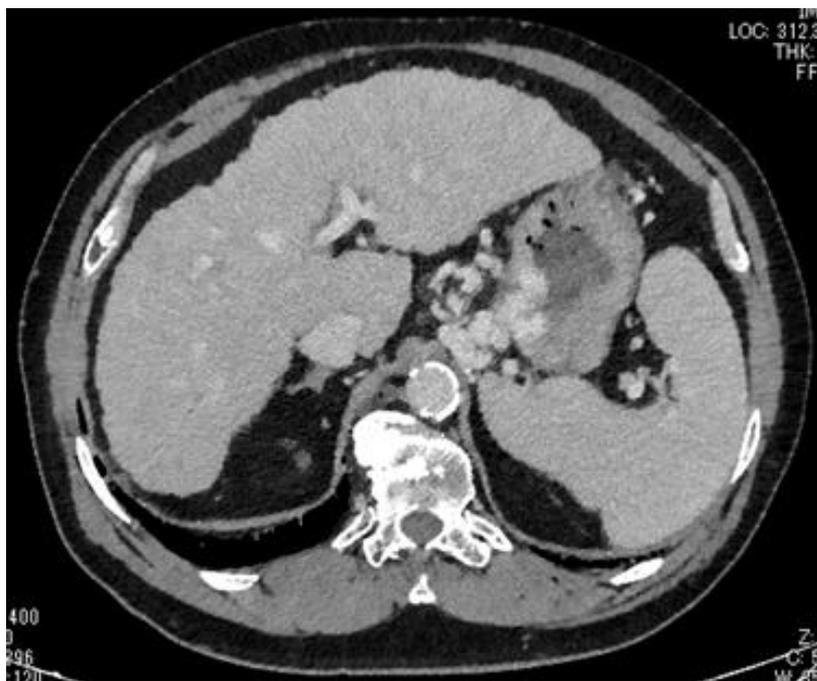
現症：意識清明。体温 36.6°C。脈拍 77/分。血圧 126/80mmHg。SpO₂ 98%(room air)。呼吸数 12/分。眼球結膜に軽度黄染を認める。腹部は平坦、軟。肝を触知しない。左肋骨弓下に脾を 3 cm 触知する。下腿浮腫を認めない。

検査所見：

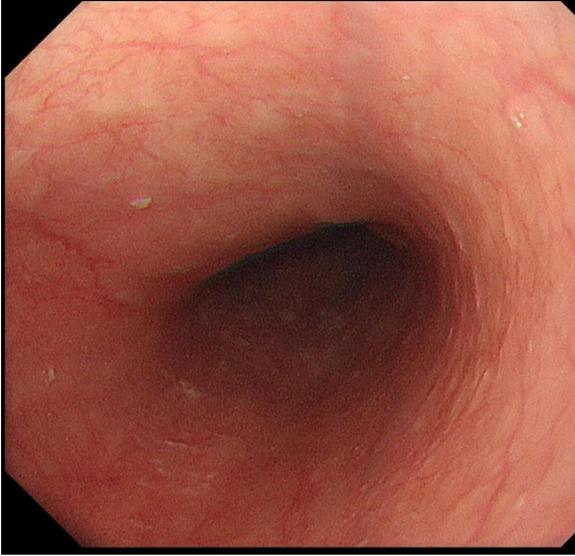
血液生化学所見：AST 65 IU/l、ALT 20 IU/l、LDH 224 IU/l (基準 176~353)、ALP 444 IU/l (基準 115~359)、 γ -GTP 138 IU/l (基準 8~50)、総ビリルビン 1.3mg/dl、アルブミン 3.4g/dl、尿素窒素 19mg/dl、アンモニア 242(基準 18~48)、クレアチニン 0.86mg/dl、Na 140mEq/l、K 4.2mEq/l、Cl 106mEq/l、CRP 0.29mg/dl、PT% 60(基準 70~120)、AFP 7ng/ml(基準 20 以下)

(A)腹部造影 CT、(B)食道の上部消化管内視鏡検査、(C)胃の上部消化管内視鏡検査の画像を以下に示す。

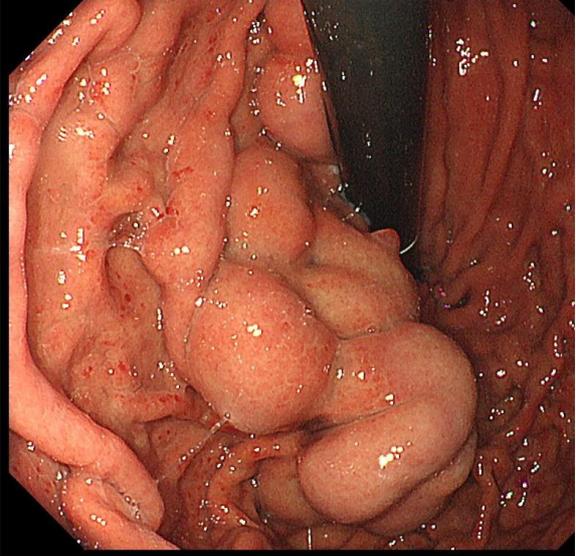
(A)



(B)



(C)



問1 この患者でみられる可能性の高い所見はどれか。2つ選べ。

a. 手掌紅斑 b. ICG 試験(15分値) 3% c. Rovsing 徴候 d. 汎血球減少 e. Fisher 比の上昇

問2 この患者の治療として適切なのはどれか。

a. バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術 (BRTO) b. SB チューブ挿入 c. 噴門側胃切除 d. 内視鏡的食道静脈瘤硬化療法 (EIS) e. 内視鏡的静脈瘤結紮術 (EVL)

答え

1 問目 : 1 c,e、 2 a,e

2 問目 : 1 a,d、 2 a